

高濃度ビタミンC点滴療法説明書・同意書

ビタミンC点滴療法は、米国カンザス州のDr. Hugh Riordan (1932-2005)/ Riordan Clinic(<http://www.riordanclinic.org/>) を中心に行われ、世界中で広く行われている治療法です。当院で使用するビタミンC製剤は、上記の米国施設で使用されているものと同等の製剤を、治療目的に医師が個人輸入を行っています。今までの日本国内の医療機関で多くの患者さんへ使用実績があり安全性は確認されていますが、厚生労働省によって認可されたものではありません。

この治療は、風邪の引き始め、疲労回復、慢性疲労症候群、癌などの悪性疾患・うつなどの精神症状・アトピー性皮膚炎など皮膚疾患・慢性関節リウマチなどが適応となります。この治療法の特徴をご理解頂き、患者さんご本人およびご家族の方々の同意を頂いた後に治療を始めさせていただきます。

方法

- ビタミンCを溶解した製剤を静脈へ点滴します。
- 所要時間は、ビタミンC25gで約1時間、50gで約2時間ほどかかります。
- 長時間の点滴となる場合には、飲み物や食べ物をお持ち下さい。

特徴

- この治療法は、標準的治療とってかわるものではありません。
- 癌の治療では、標準治療の効果を高め、副作用を軽減させることが確認されています。
- この治療を単独で行う場合には、他の治療法によって明らかな効果が期待できないとき、他に有効な方法が無い場合、従来の方法では改善が期待できないときなどです。
- 他の治療法によって効果が期待できるときにも併用することが可能です。この場合にも、従来の治療法の効果を減弱させるような作用はありません。

予想される副作用・合併症(まれですが、本治療における副作用として、以下のことが挙げられます。)

- | | | |
|--------------------|----------------------------|---|
| 1. 点滴刺入部の痛み | 6. 低血糖症状
(冷汗、疲労感、めまいなど) | 9. 溶血(赤い尿や貧血):
G6PD欠損症の方は溶血性貧血を
引き起こす可能性があります |
| 2. 眠気やだるさ | 7. みせかけの高血糖 | |
| 3. 吐き気や頭痛 | 8. 低カルシウム血症
(けいれん、震えなど) | |
| 4. 点滴後の一時的な痛み、皮下出血 | | |
| 5. 点滴後の一時的な頻尿、口渇 | | |

その他

- 糖尿病でインスリン注射を行っている方へ。点滴後12時間以内は血糖測定器がみせかけの高値を示し、この数値でインスリン注射を行うと低血糖になります。点滴後12時間の測定は控えてください。
- クリニックの長期休診(年末年始、GW、夏期休暇などの一週間前後の休診)の間は、治療をお受け頂く事ができません。予めご了承下さい。
- 心不全、腎不全、人工透析中、先天性 G6PD 欠損症の方は高濃度 ビタミンC点滴療法をすることができません。
- この治療は、これまで行われている治療に取って代わるものではありません。日常の病状に対する悩み事・ご不安な点は、従来のかかりつけ医や主治医へご相談ください。

本治療は自由診療であり保険は適応されません。

上記に記載された内容を理解し、高濃度ビタミンC点滴療法を受けることに同意します

20__年__月__日

住所 _____ 電話 _____

署名 _____

20__年__月__日

私は上記の説明書に基づき、患者さんに対する診療についてご説明いたしました。

説明医師署名 _____